

## 平成 30 年度（2018 年度）第 2 回上下水道事業運営審議会議事録（要旨）

日 時 平成 31 年（2019 年）3 月 29 日（金）午前 10 時から（100 分程度）

場 所 上下水道局本館 6 階 中会議室

出席委員 7 名（50 音順）

伊藤紘晃委員、川口彩希委員、川野由紀子委員（副会長）、境大介委員、篠原亮太委員（会長）、津曲明子委員、山田大輔委員（新委員）

事務局（市側）出席者

白石上下水道事業管理者、吉澤技監、永戸総務部長、上村計画整備部長、白岩維持管理部長、船津総務課長、上田計画調整課長、眞杉水相談課長、江藤経営企画課長、石田経営企画課副課長 他 3 名

傍聴者 2 名 報道機関 1 社（JCOM）

次 第

- 1 開 会
- 2 管理者挨拶
- 3 新委員紹介
- 4 議 題
  - （1）平成 29 年度決算について
  - （2）平成 31 年度当初予算について
  - （3）経営基本計画平成 29 年度事業評価について
  - （4）経営戦略について
- 5 その他
- 6 閉 会

### 議事録

（1）平成 29 年度決算について、資料 1-1、資料 1-2 を用いて事務局から説明	
委員	資本的収支の不足分については、どのように補っているのか。
事務局	現金支出を伴わない支出（減価償却費など）が内部留保され、これらが不足額に充てられている。
委員	今の収支は健全と言えるのか。
事務局	健全な運営をしている。
事務局	資本的収支の不足額については、収益的収支の支出部分にある、施設の減価償却費や純利益で賄っているとお考えいただければ。上下水道事業ともに純利益を出しており、経営は安定している状況である。
委員	国のほうでも民間委託を進めるような話が出てきており、私たち市民は上下水道事業が健全に運営できているか不安に思っている。経営が安定しているということであれば、それは素晴らしいことであり、今後も継続していただきたい。
委員	減価償却費などが出てくるとどうしても説明がわかりにくくなってしまう。 民間ではキャッシュフロー計算書を作成しているし、社会福祉法人や学校法人においても資金収支計算書等を作成している。単純にお金の流れだけ表すと、市民感覚としてもわかりやすいものになるのではないか。 企業会計で言えば、営業キャッシュフローによって、営業でどれだけ稼いだか、稼いだ分

	をどれだけ投資に回したかなど、投資の状況を表すことができ、審議会だけでなく、広報などにも使え、審議もより深まるのではないかと思う。
事務局	キャッシュフロー計算書については、決算書において掲載しているところ。
委員	キャッシュフロー計算書のように市民感覚での説明資料があるといいかもしれない。市民に公表する際には、わかりやすい形で工夫して出してもらいたい。

( 2 ) 平成 31 年度当初予算について、資料 2-1、資料 2-2 を用いて事務局から説明	
工業用水道事業について	
委員	( 上下水道事業と比較して ) 事業の規模感が小さい。 将来的に考えたとき、管路の布設替え等が出てくると多額の更新費用が必要になるのではないか。今後の経営の見通しをどのように考えているのか教えていただきたい。
事務局	現在工業用水道を利用しているのは 11 社であり、更新事業も基本的には小さい規模で進めていく。実際の更新は企業債を活用して進める。
委員	工業用水道は水道管路とは別に管路を布設している。事業を実施しているのは城南地区ということだが、管路が老朽化した場合、そこまでの管路を更新しなおすことが必要となる。上下水道事業は事業規模が大きいと、更新のために必要な事業費を回すことができると思うが、工業用水道のように事業規模が小さいと、将来的に収支の問題が出そうな気がする。
事務局	工業用水道は、水源地も城南地区にある。
委員	同じ地区でやっている分、更新等に係る事業費も少ないということか。
事務局	お見込みのとおり。上下水道のような大きな規模ではない。
委員	規模が小さいとなると、事業を継続する意味があるのかと思う。
事務局	将来的にはいろんな方向性も検討していきたい。
浸水対策について	
委員	予算が大きく減少している理由はなぜか。
事務局	浸水対策としては、重点 6 地区と定めた地区の対策工事を進めている。できるだけ毎年度の事業費の平準化に努めているものの、平成 30 年度 ( 2018 年度 ) は坪井川第 3 排水区の調整池の本格整備や、鉄道高架事業の完了に伴う水路関連の事業費が増えたこともあり、全体として大きな規模となった。
委員	平成 30 年度 ( 2018 年度 ) の事業費が大きかったという認識でよいか。
事務局	お見込みのとおり。
熊本地震関連	
委員	下水道事業の資本的収支の熊本地震関連が多いのは、地震の被害を受けやすいということなのか。
事務局	国の災害査定としての被害額については、水道は 20 億強、下水道は約 67 億となっている。
委員	熊本地震以降は、耐震工事は増えたのか。
事務局	地震対策については、国土交通省の補助を受けながら事業を実施しており、平成 25 年度 ( 2012 年度 ) から下水道総合地震対策計画の中で耐震工事を進めている。防災対策としては管路の耐震化、減災対策としては非常用発電機の配備やマンホールトイレの整備を実施しており、浄化センターについても 17 施設の耐震対策を順次進めている。計画期間は平成 25 年度 ( 2013 年度 ) から平成 32 年度 ( 2020 年度 ) であり、今後も継続して事業に取り組む。
委員	下水道管路の被害が生じた場合、熊本市は地下水が豊富であることから、浸入水による被害が大きくなると思う。浸入水が増えれば処理場への負荷は大きくなると思うが、被害状況の調査はどのように進めているのか。
事務局	熊本地震直後から 1 次調査・2 次調査に取り組み、主要幹線道路から順にカメラ調査等を実施するなど、被災した管路の延長を 47.4 キロまで絞り込んだ。これらの路線を 28 工区に

	分けて復旧工事を進め、このうち 20 工区が完了したところである。管路延長ベースでは 85% 程度まで復旧が進んでおり、地震直後に比べ、処理場への流入量も減少してきている。
委員	水道管路の被害は漏水という形で発見しやすいが、下水道管路の被害は見つかりにくい。熊本は地下水が豊富であり、亀裂等から浸入しやすい環境にある。調査・復旧工事はしっかりと進めていただきたい。
<b>事業計画について</b>	
委員	(事業に関する)長期的な計画が気になっている。長期的な見通しの中で今年度はこの分だけやるとこの分だけ進める等のような形で示してほしい。
事務局	復旧工事のスケジュールに関しては、平成 29 年(2017 年)6 月に熊本市上下水道事業震災復旧復興計画を立てており、平成 31 年度(2019 年度)を最終年度として、施設の復旧や耐震化、災害時の対応力の強化を掲げている。下水道管路については復旧工事の契約の不調が続いたこともあり、4 工区が未契約であったが、平成 30 年度(2018 年度)中に何とか目途が立ったところである。それらの工区も含め平成 31 年度(2019 年度)までに復旧工事を完了したいと考えている。

<b>(3) 経営基本計画平成 29 年度事業評価について、資料 3 を用いて事務局から説明</b>	
<b>P.7 地下水かん養量について</b>	
委員	熊本地震の影響により今まで住んでいた土地を離れるなど、これまで見込んでいた湛水面積が減りかん養量が減少する可能性があると思うが、目標値は達成できそうという認識でよいか。
事務局	水田湛水事業については本市環境部局の所管であり、一概に上下水道局だけでは予測しづらいところがある。かん養事業については引き続き努力していく。
<b>P.7 成果指標「水道水をそのまま飲む人の割合」について</b>	
委員	D 評価とされているが、熊本市の誇るべき地下水をこのアンケートだけで評価してよいものか。
事務局	市民の嗜好も変化しており、浄水器を使用する人も増えている。成果指標として改めて検討する余地はあるかと思う。
事務局	社会全体として安全安心を求めるような傾向が見られ、浄水器の利用者の増加やペットボトルの普及等もあり、水道水をそのまま飲む人は減少している。そのような状況の中、上下水道局としては、水道水源の 100% が地下水であることや、安全安心でおいしい水道水を届けているということを強く PR していくべきと考えている。アンケートの実施方法や成果指標自体の在り方についても、今後検討を進めたい。
<b>成果指標の評価理由の掲載の仕方について</b>	
委員	成果指標の中に、事業の進捗を測るものと成績を評価するものが混在している。 D 評価とした成果指標については、公表する前にその評価でよいのかどうか慎重に考えるべきである。公表する際には、評価を見た市民がどのように受け取るのかまで考えてほしい。 また、全体として C 評価、D 評価のような事業の進捗が芳しくない指標については、評価理由を「目標達成が困難であったため」とするのではなく、例えば予算が確保できなかったとか、市民ニーズがなかったなど、丁寧な解説が必要である。進捗が遅れているから C 評価、D 評価というのは評価の理由にはならない。
委員	評価した理由をきちんと記載しないと、進捗がよくない理由がわからない。
委員	なぜ進捗が遅れているのかをきちんと記載するべき。

事務局	ご指摘のとおり、以後の事業評価にあたっては、評価した理由についてもっと丁寧に記載する。
P.7 成果指標「水道水をそのまま飲む人の割合」について	
委員	委員に就任する以前からD評価であることが気になっていた。自分の周りの方も自販機のペットボトルの水を購入する人が多く、本人たちに聞いても特に理由はないと返されてしまう。 成果指標の評価を向上させるために事業に対して予算を措置するかと思うが、D評価となった成果指標については、評価向上のために積極的に予算を措置してもよいのではないか。例えば、テレビCMにタレントを活用するなどの手法もあると思う。 また、ホームページのアクセス数にも関わるが、若年層はインスタグラム®を利用している割合が高く、それらを活用した広報もあるのではないか。
委員	熊本市の地下水の水質がよいのは間違いない。ただし、マンションや新築の家等は配管が新しいことから、どうしても配管の臭いが移ってますぐなくなってしまうこともある。直圧方式による給水の普及など、おいしい水を飲むためのPRも検討してほしい。
P.9 成果指標「ホームページアクセス数」について	
委員	ホームページアクセス数は高いのか低いのかがよくわからない。上下水道局のホームページを見る人はそこまで多くない気がする。成果指標として管理しないといけないように低い値なのか。
事務局	平成28年度は地震の影響で急増しているものの、平成29年度については、平成27年度以前と比べても減少していることからC評価としている。
委員	現在のC評価は、目標値に向けて進捗がよくないということで評価したもの。他都市のホームページと比較して多いのか少ないのかわからない。
事務局	市のホームページのアクセス数等で考えると、ゴミだしルールや窓口関係等が上位にあり、それらと比較すると上下水道局の記事に対するアクセス数は少ないと思う。
委員	単位が「人」であることに違和感がある。「回」が妥当ではないか。
P.7 成果指標「水道水をそのまま飲む人の割合」について	
委員	水道水をそのまま飲む人の割合について、他都市の状況はどうなのか。多くの人が水道水をそのまま飲むような都市はあるのか。
事務局	(事務局に対して) 成果指標はあるか。
事務局	水道水をそのまま飲む人の割合を測るような指標は一般的にはないと思う。
委員	70万人規模の都市で、水道水をすべて地下水源で賄っているというようなところは他にないので、単純な比較はできないと思われる。
委員	上下水道局では水道管を維持管理しているが、その先の給水管については各家庭やマンションによって維持管理されるものである。「1-3 水道水質の維持管理」についてはA評価とされており、上下水道局としてとても高い品質を確保しているけれども、例えば、給水管以降の部分が老朽化しているから直接水道水を飲めないということも考えられる。そうすると、水道水をそのまま飲めないというのは、その人たちの責任もあると思う。やはりこの指標を成果指標として設定することに違和感がある。 ホームページに各家庭での給水管のメンテナンスの仕方などを掲載するなど、付加価値の高いものを求める家庭には、より高い品質の水道水を届けるというような取組を実施することで、収益も改善できるし、安全・安心な水道水を届けることもできるのではないか。 評価方法にも見直しが必要であるが、私たち市民の意識はまだ低く、水道水は当たり前が届くものという認識を持っていて、原因が自分たちにあると気付かれていない方も多いのではないかと思う。
委員	その通りではあると思うが、行政からは市民に対して説明しづらい部分もある。

事務局	上下水道局としては、水道法で定められた基準を達成するよう水道管路の維持管理に取り組んでいるけれども、各家庭の給水管となると局側が立ち入るのが難しい部分もある。
委員	おいしい水を飲むための方法について、マスコミと連携した広報も実施してほしい。テーマを絞って広報を実施するのも面白いと思う。
委員	日常的な感覚として、水道水をそのまま飲むことは想像しにくい。そのまま飲むだけでなくお茶等に利用したとしても、水道水のおいしさは出てくると思うので、水道水をそのまま飲み物に利用するか、といった質問内容にしてもよいのではないか。
P.9「7-3 お客さまニーズの的確な把握」について	
委員	アンケート結果は公表しているのか。 アンケートをデータ化し意見を分類したうえ、上下水道局がどのようなニーズを把握することができたのか、それを受けてどのような取組を進めていくのかまで明らかにすると、ニーズを的確に把握したことについて、お客さまにも知ってもらえるのではないか。
事務局	アンケートで受け付けた意見は、内容ごとに分類したうえ各課に情報提供しており、各課で随時対応している状況にある。

(4) 経営戦略の策定について、資料4を用いて事務局から説明	
委員からの意見、質問は特になし。	